

「柏崎の橋」

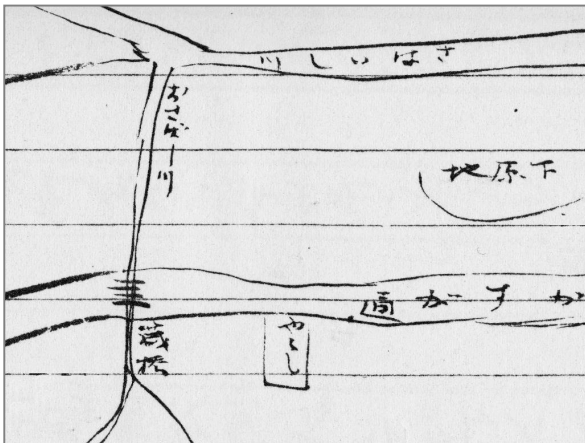
6 おさばし 箴橋

春日二丁目と春日三丁目の境にあり、県道黒部柏崎線が、よしやぶ川を横断する橋である。現在の表記は、箴橋である。

柏崎文庫には「○箴橋 梭橋 鯖石川（藤井堰分水）の支流に架す 三階節に 新道折はし柳ばし 春日の箴橋大堰かけるが なみだばし

○昔時は長岡街道にて 今の通りより少し東に道路ありしなり」との文と、橋付近の図がある。（この図で、現在のよしやぶ川は、おさばし川と記されている。）

この図は、徳川末期頃のものとして、西中通のあゆみに転載されている。西中通のあゆみには、箴橋の名称と架替と題して、「この橋は元は木橋で、橋板を機織りの箴型に張りつけ敷いたのでこの名が生まれた。（中略）大正十年頃までは木橋板張りであったが、大正末期頃木橋土橋に作り変えられ」とある。



中央に「おさばし川」、上部に「さはいし川」、右側に「かすが通」と見える。

橋の表記は、箴橋・箴橋・梭橋と様々である。本来の読み方と意味は下記のとおりで、すべて機織用具である。

①箴：（おさ）薄い竹片を櫛形に列ねて作り、長方形の枠に入れたもの。（※昔話「鶴の恩返し」で、鶴が自分の羽を抜いて、着物を織るときに使ったもの）

②箴：（しん）はり。縫い針。また病気の治療に用いる石鍼（いしばり）。

③梭：（ひ）経（縦糸）の開口した間を左右に飛走して緯（横糸）入れを行うもの。

なお、日本国語大辞典（小学館）の「おさかき」の項に、「【箴搔・箴摻】機織機具の部品を作る竹細工人。転じて、広く種々の竹細工をすること。梭師（おさし。）」とあるので、読み方は「おさばし」で統一されていたものと思われる。



箴橋と命名された理由は、往時の橋の製作方法にあると思われる。山形県飯豊町にある、源流の森センターの「おさ橋かけ」行事を紹介したホームページでは、丸太の上に薪のような木を並べ、木の枝をひねってネジ代わりに結わえた橋を、実演製作した様子が紹介されていた。（現在は閲覧できません。）

三階節は伝承により異なり、松田政秀氏の三階節には、柏崎文庫の歌詞はないが、類似の「春日おさ橋もろか橋、田尻、田尻の鉦橋茨目街道のどおど橋」「新道折橋柳橋、田尻、田尻の鉦橋大堰かけるが涙ばし」「新道折橋柳橋、町の、大橋蟋蟀茨目街道のどおどばし」が掲載されている。（※蟋蟀橋は、ソフィアだより178号に掲載した。）

●参考にした本

柏崎文庫 第17巻（080 セキ 17）

31、33ページ

西中通のあゆみ（224 ニシ）24、37ページ

三階節 松田政秀（916 マツ）8、25ページ